

2022 年度

国府台女子学院 中学部

第一回入試

国 語 (50 分)

【注 意】

1. この問題は、「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
2. **受験番号**は解答用紙の決められたところにはっきりと書いてください。
3. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
4. 印刷が不鮮明ふせんめいでわからない場合や、その他わからないことがあった場合には、だまって手をあげ、先生にたずねてください。
5. **答えは、すべて別紙解答用紙に記入してください。**

注意Ⅱ句読点や記号もそれぞれ一字と数えます。

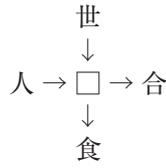
□ 次の各問題に答えなさい。

問一 次の①～⑤の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字はよみがなをひらがなで答えなさい。

- ① シュウブンの日は彼岸ひがんの中日だ。
- ② ボクジョウで牛を育てる。
- ③ 美しい音色をカナでる。
- ④ 郷土の歴史を調べる。
- ⑤ 勇者は赤面あかおもてした。

問二 それぞれの矢印の向きにしたがって適切な二字熟語ができるように、

□に共通する漢字一字を答えなさい。



問三 次の熟語のしりとりが完成するよう、A、Bに適切な漢字一字をそれぞれ答えなさい。



問四 次の文の——線部の意味を表す最も適切な四字熟語を後のア～エより

一つ選び、記号で答えなさい。

誰もが勝利をあきらめていた試合で、彼が絶望的な状態を立て直すホー  
ムランを打ち、形勢が逆転した。

- ア 絶体絶命    イ 起死回生    ウ 完全無欠    エ 一挙兩得

問五 「八面六臂」の「面」は顔、「臂」はひじ、胸のことを表します。これ  
をふまえて、この言葉の意味として最も適切なものを次のア～エより一  
つ選び、記号で答えなさい。

- ア 場面によって発言する内容が変わること。  
イ 世の中の動向がすべて分かること。  
ウ どんな場面でも凶々しい態度であること。  
エ 一人で何人分かはたらきをすること。

問六 次の——線部の語の使い方が適切であれば○、不適切であれば×と  
答えなさい。

弟の文才に舌を巻く。

問七 次のア～エの——線部の語のうち、使い方が不適切なものを一つ選び、  
記号で答えなさい。

- ア あの峠は、この地域きつての難所だ。  
イ 配役は、平田監督きつての要望だ。  
ウ そいつは当代きつての悪党だ。  
エ A君はグループきつての売れっ子だ。

問八 「うなだれる」「うなづく」の「うな」は漢字で「項」と表記することができますが、これは身体のある一部を表しています。その身体の部位をひらがな三文字で答えなさい。

問九 「やすやすと」という語を適切に用いて、十字以上二十字以内の短文を作りなさい。

## 〔二〕 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

中学一年の時の電車通学と、今の電車通学はちよつと違う。皆マスクをつけて、空けられるだけ間隔を空けている。外では基本マスクをつけているから、たまに体育の時にマスクを外すと「外の匂いだ」とその新鮮さや、季節によって外の匂いが変わることに驚いたりする。夏の匂いとか雨の匂いとか、はあ？ って感じだったけど、今は普通に分かる。

自粛警察がいるかもしれないけど、もし何か言われても気にしないように。ママは去年休校が解除された頃そんなことを言っていた。マスクをつけていない人を注意するおじさんとかおばさんがいるらしかった。私は出会ったことはないけど、パパがマスクをつけないで自転車に乗っていたら、マスクあげようか？ とマスクを渡そうとするおばさんに遭ったと話したことがあった。え、そんなんだだの親切な人じゃんマスク今手に入りづらいんだし、と言ったけど、日本に於いてマスクは義務じゃない、人にマスクを押し付けるのは凶悪犯罪に近い行為だよ、とパパは鼻で笑って、その人がコロナに罹ってたらそのマスクを通じて感染するかもしれないしねとママも皮肉っぽく笑って同調した。私が学校や外で見聞きした親切な行為や正義感によって

引き起こされたんであろう誰かの言動について話すと、彼らはそういう風に反応することがよくあった。「変態なんじゃない？」「その子は玲奈のことを独占したいからそんなことを言ったんだよ」「それは敢えて意地悪でそう言ったんだよね？」「それは親切に見せかけた巧妙な抑圧、ハラスメントだね」。よく分からないけど、人の親切とか正義感は、必ずしもいいものとは限らない、あるいは裏の意味がある、という意味っぽかった。どうして親切だと思っただことを、正義感に感動したことを、疑わなきゃいけないだろう。どうして親切にしたい時、正義感に突き動かされる時に、深読みされるかもって心配しなきゃいけないだろう。私は何だか、彼らのそういう言葉を聞くと自分の大切なものがこぼれ落ちてしまうような気がして、いつからか話を半分の半分くらいにしか聞かないように気をつけるようになった。

「おーい、玲奈」

駅から出て信号を渡ったところで駿くんが声を掛けてきて、おー！ と手を上げ、ラブドリを聞いていたイヤホンを外す。

「帰り？」

「帰りー。コンビニ寄るー」

「じゃ俺もー」

「てかマスク」

「外でくらい好きにさせろよー」

(中略)

「今大変なんよ」

「急な関西弁」

「うち飲食じゃん？ コロナでめちゃくちゃでさ。これに乗れれば、を何回も続けていいかげん潰れそう」

「え、潰れるって、お店が潰れるってこと？」

「ヤバいかもね。親も荒れてて家が地獄よ」

「え、大丈夫なの？」

「何が？」

「何って……駿くんが」

「俺は大丈夫よ。うざって思うけど、別に親に期待してねえし」

そもそも親に期待するものなのか、期待しないものなのか、自分は親に期待しているのかいないのか、そんなことを考えたこともなかった私は、途端③に自分が同年代の中でもかなり精神年齢が低いのもかもしれないという可能性にぶち当たって胸がざわざわしてくる。

「お母さんとお父さん、喧嘩してたりとかするの？」

「ほぼ毎日だよ」

(中略)

「冗談っぽくだけど、お前がいなきゃ楽なのになって、母親にしょっちゅう言われるんだよ。俺がいるのあいつらのせいなのにな」

そんなことを言う親がいること、親をあいつらと呼ぶそれなりに仲のいい友達に静かにシヨックを受けて、私は何も言えなくなる。

「シヨック受けんなよ。なんかそんなの、俺がシヨックじゃん」

「ごめん」

ごめんも違うと思いつつ、ごめんとしか言えなかった。こんな時、人生のいいところも悪いところも知ってそうなのセイヤだったら、人生経験豊富なイーイーだったら、斜に構えたママだったらなんて言うんだろう。

④「うわだる」

駿くんは言いながら、私の目元を覆うように手をかざした。涙ぐんでいたのかもしれない。怒らせちゃっただろうかと思っただけ、ごめんともう一回言うと、別にと行って駿くんはコーラを差し出した。気を逸らすために勢い

よく飲んだら炭酸がキツくて逆に涙が出た。

「学費払えなくなったら学校辞めてもらうかもって言われたし、なんか学校とか勉強のモチベーションも上がんねえんだよな。大学までエスカレーターだからもう二度と受験しなくていいんだぞって言われたから無茶苦茶がんばって受験したのにさ」

ミナミも、お父さんがリストラされたから転校しなきゃいけなくなったんだ。そういえば、緊急事態宣言のせいで映画館が休業になるかもしれないと、ママがこの間嘆いてた。私だって両親の仕事がどうにかなれば、学校を辞めなきゃいけないかもしれないんだ。そう思うと、私たちが子供って超不安定なものの上に自分の生活が預けられてるんだと改めて思う。小学生の頃、塾の請求書を渡すたびなんとなく不安で、うちってどれくらい貯金あるの？ 私の受験のためにこんなに払って大丈夫なの？ とママに聞いたことがあった。幾らお金があっても不安な人は不安だし、お金がなくても平気な人は平気だから、幾ら貯金があるかよりも、自分がなぜお金がなくなることを不安に思ってしまうのかということについて考えた方がいい、その問いに向き合う力がないのなら、向き合う力をつけるために塾でしっかりと勉強したらいい。とママは真面目な顔で答えた。

(中略)

「そうだ。私今週の日曜朝からいないから」

ママが唐突に言う。理由は言わない。

(中略)

ママの言葉が終わる前に「じゃあじゃあ日曜友達呼んでいい？ 皆で勉強会したい！」と声を上げる。

「友達くる前に玲奈が家の掃除するならいいよ」

「するする。何でもする」

「誰呼ぶの?」

「ヨリヨリとミナミ誘う。もしミナミが来れなかったら他の友達誘うかも、ナツとかパスコとか」

「誰が来るのか決まったら教えて。お昼、何かピザでも予約しておこうか?」

「どうしよかなー。ちよつと相談する。自分たちで材料買ってきてご飯作ってもいいし」

「怖いな。火つけっ放しとかにしそう。何か取ってあげるよ。ウーバーイーツ頼んで、家の前に置いてもらおうようにしてもいいし」

(中略)

「死ぬほど楽しい! ほんと親のいない家って最高!」

ヨリヨリの言葉にそれなと答えると、頑なにそれなという言葉を口にしな  
いミナミもほんと楽しい、と最大限の喜びを表明した。中学生の集まる家に  
いたくないからと、結局パパも二人が来る前に家を出て行った。圧倒的自由  
だった。(中略)

なんかもう笑いすぎて声が嘎れてきたなって頃、ようやく「お腹が空いた」  
ことに気付いた。

「フライドチキン食いたい」

ヨリヨリの言葉にそれなだけこの辺KFCないしなーと答えた瞬間、駿  
くんのお店のことを思い出して、近くに唐揚げが美味しい定食屋あるんだけ  
ど行く? と提案する。

「え、外食? 最高じゃん!」

「近くにあるの?」

「まあ七分くらい歩く感じ?」

「唐揚げ定食とかあんの?」

「あるある。とんかつとか、なんかチャーハンとかラーメンとかもあった気

がする。友達の親がやってるお店で……」

「いいじゃんいこ! 二千円でお金足りるよね?」

「足りる足りる。多分定食とか千円もしなかったと思うよ」

私たちはマスクをつけて外に飛び出す。地元ヨリヨリとミナミがいるの  
が何だか不思議で、あそこ私の小学校、あそこにかい公園があるよ、向こ  
うに有名な今川焼きのお店があつて……あの向こうにまあまあ小さい百貨  
……と話しながら、なんかめっちゃ大好きな街なのに改めて紹介してみると  
意外と何にもないんだなと残念な気持ちになる。

お店は二時半ということもあつてか私たちの他には一人のおじさんしかい  
なくて、駿くんのお母さんは珍しそうな目で私たちを見てから好きなこと  
うぞ! とフロアを示す。

「もしかして、駿のお友達だったかしら?」

お冷を出しながら私を覗き込んで聞いたお母さんに、小学校の頃の同級  
生の、森川と言います、と答える。

「ああやつぱり。こんな若い子たちが来るの珍しいからびっくりしちゃった。  
ゆっくりしてってね」

よそ行き顔の私を、ヨリヨリとミナミがニヤニヤしながら見ていてやめて  
よと小声で言う。ヨリヨリはとんかつ定食、ミナミがチャーハン、私は牛カ  
ルビ定食にした。うわ映えるー、えっちよつと一口ちようだい、私もかつ食  
べたい、やつぱかつ最高、え、チャーハンも一口……えチャーハンもバリう  
ま……、ほんとおいしい! ヤバない? 牛ヤバい! 牛まじ牛! と騒い  
でいると、駿くんのお母さんが「これもどうぞ」と山盛りの唐揚げを出して  
くれて私たちはポカンとする。

「サービス!」

親指を立てるお母さんに三人で「ありがとうございます!」と声を上げた。

なんか駿くんの話の話を聞くと、お母さんひどいとか、学校辞めさせるなんてあり得ないとか悲しみが募ったけど、何だかんだ実際いいお母さんなんだろうなとほっとした。世の全てを冷笑するためにこの世に生を享けたかのような私のママなんかより、友達の話とか今日学校であった面白い話とか、部活の話とかで盛り上がれそうだな。

I

フリーリングで絶対牛カルビって思ったけど、やっぱりとんかつを目の前にしたら食べたいのは当たり前だし、チャーハンと中華スープのセットだって目の当たりにすれば一口はもらいたくなるよねってことだ。

(中略)

はーとため息を声に出してベッドに倒れ込むとスマホを手に取り溜まっていたLINEを開く。ヨリヨリとミナミのグループ、学校のイツメングループが活発だけど、駿くんから個人LINEが入っていて、ゲリラファームの誘いかなと思いつつタップして固まる。

「今日うちの店きただろ」「やめてくんないさういうの」「<sup>(イ)</sup>施してみたいのまじうざ」。は？。何でキレられなきゃいけないの？。は？。と思いつつちよつと不安で施しをググって意味を確認した途端どつと怒りの熱が湧く。どうしてこんなこと言われなきゃいけないの。私が同情心でお店に行つたと思つてキレてるってこと？。何でそんな誤解されなきゃいけないわけ？。もしかしてと思つて通知を調べるとYORIRIが投稿しましたと入つていて慌ててタップする。ヨリヨリのインスタにはとんかつ定食と唐揚げの画像が上がつていて、#まじうま#REINAと#Miminと#はま屋。とハッシュタグがつけられていた。慌ててヨリヨリのアカウントを見にいくと、やっぱりヨリヨリのフォローワーに駿くんがいた。

(中略)

「ちよつとまって誤解」「今日学校の友達と食べに行ったのは本当だけど」「マ

マがないからビザとるみたいな話になって、でもヨリヨリがフライドチキン食べたいつて言うから」「唐揚げ美味しいお店があるよって連れてつただけだよ」「私はま屋のご飯好きだし、めっちゃ美味しかったし」「写真撮つてたけどアップするなんて思つてなかったし、施しとかまじそんなこと一ミリも考えてないんだけど」

連投すると、すぐに既読がついた。でも駿くんはなかなか返信を送つてこない。こんな奴だったつくと、この間神社で話した時も思った。こんななんか、ちよつと掴めないなつて感じの奴だったつと。成長の過程で少しずつ複雑になりつつあるつてことなのか、それとも両親との関係が揺れてくることによる複雑さなのかよく分からないけど、なんかこの間まで普通いきようだみたい感じてた人が、ものすごく遠くにいる人のように感じるこの瞬間は、取り残された感と、もうあのきようだ感持てないんだろかなという予想で胸が苦しくなることを私は初めて知つた。

「はま屋の唐揚げめっちゃ美味しいじゃん。だから仲のいい友達に食べさせてあげたくて」

気持ちを伝えたくてもう一度送るけど、やっぱり返信はこない。

「話聞いてよ」。そう入れると、「別に無視してねえよ」と入つてきた。

「玲奈うちの店卒業式の日から一度だつて来たか？。コロナで大変だつて俺から聞いたから、行つてやろつて気になつたんだろ？。それつて施しじゃん。友達から施しつて、そんな最悪だし、バカにしてんじゃん」

⑥ 分かつてもらえない。この人に、私の気持ちは分かつてもらえない。確かに私は卒業式の日から丸二年くらい一度もあの店には行かなかつた。確かにちよつと、中学生にはハードルが高いお店だ。大人、少なくとも大学生くらいが行くお店つて感じがする。でもこの間駿くんと話したこと、それで卒業式の日のことを思い出したこと、それでたまたまこの二人となら入りやすい

かもと思える友達が遊びに来て、二人をもてなしたいって気持ちもあったし、私の地元いいお店あるんだよってことを教えたくもあって、いろんなそういう積み重ねの中ではま屋に連れて行っただけなんだ。それは決して施しとか同情とかそういう気持ちからの行動じゃないと思ったけど、でも本当にそうなんだろうかって私は不安になっていく。どこかで、私たちが食べることで少しでも足しになればと思っていた節はあったかもしれない。だから、サーブで唐揚げを出された時、何だか悪いことをしてしまったような気もした。でもそうやって善意で何かの足しになればって思うことがそんなに責められること？ 駿くんは自分が親と関係がうまくいってないから、その怒りを私にぶつけてるんじゃないだろうか。でも自分はすごく浅はかなことをして友達を傷つけてしまったのかもしれないと疑い始めた時から、腕がムヒを塗ったみたいに冷たくなった。どうしよう。

(中略)

ママの淹れたカモミールティーは、Happy Birthday REINAI というメッセージがプリントされたマグカップで出された。去年、仲の良い友達らが皆でお金を出し合ってプレゼントしてくれたものだ。食器洗い担当のパパがしょっちゅうお皿を割るから、もらった時から割られるのが怖くて使う時は必ず自分で洗うようにしている。私の正義感、駿くんを傷つけたんだろうか。いやそんな、世のため人のためなんて気持ちでお店に行っただけじゃない。お腹空いてたし、近しい、久しぶりに外食したかったし、ヨリヨリとミナミと楽しい時間を過ごしたかった。それで、その中の理由に少しだけ、募金箱にお金を入れるみたいな気持ちもあったのかもしれない。でもそれが駿くんが傷ついた、怒った理由なんだろうか。だとしたら、私はこのマグカップをくれた友達とか、ヨリヨリやミナミのことも、気づかない内に傷つけたことがあるのかもしれない。例えばこの間セイラに文芸部って何が面白いの

的なことを聞いたけど、そんな意図はなかったとはいえ向こうはサゲられたと感じたかもしれないし、デイスリと思われても仕方ない発言だったかもしれない。それに最近は自粛してたけど、いかにも大人しめな子たちに声を掛けたりあれこれ誘ってきたのも、本人たちからしたら通り魔に遭ったような気持ちだったのかもしれない。これまで無自覚に、自分には見えないナイフで誰かのことを刺してきたのかもしれないと思うと、私は恐ろしくてもう外に出れないような気さえた。人を傷つけないなんて思ったことはないのに、それでも私は色んな人を傷つけてきたんだろう。

「私この間フェスに行ったんだ」

「知ってる」

「その時ものすごく嫌な女に会ったの」

何だか、嫌な気持ちになった。自分の親とか友達が誰かに敵意や憎しみを露わにする瞬間が、私は怖い。いつも見ているものを裏側から見るような、例えば公園に落ちていた大きな石の裏側、排水溝の裏側、電気シェードの裏側側みたい、見れば大抵、見なければ良かったという気持ちになる。

「コロナ対策で椅子が設置されて、公平を期すために席取り禁止ってアウンズされてただけど、ステージの転換でざっと人が動いた瞬間に彼と手分けして席を探しに行つて、まあまあいい席取れたから、一席にポカリ置いて、私は隣に座って彼に電話して呼ぼうとしたら、そのポカリをどかして座ろうとする女がいたから、ここ取ってますって言ったたら、席取り禁止ですよって言われたの」

「席取りって、一瞬でもダメなの？」

「どこからが席取りでどこからが席取りじゃないのか、明確な基準は発表されてなかったし、彼氏はもうそこから見えるところにいたから、いやそこにいる友達の分なんですけどって言ったたら、席取り禁止なんで、ってやっぱり

ポカ리를椅子の下に置くの。いや、トイレに行ってるわけでもなし、そこに  
いるんですよ？ ってポカ리를席に置くと、また席取り禁止なんで、ってポ  
カ리를下に置くわけ。そんなこと言ったら、落とし物を取ろうとして一瞬腰  
を浮かせた人の席を取るとかもアリってことになるじゃないですか、そん  
なのおかしくないですかって言ったら、席取りは禁止なんです、って彼女  
は口ポツトみたいに同じ言葉を繰り返すわけ。話を通じないしここで揉めて  
たら他の席も埋まっちゃうから別の席に移ったんだけど、私あんなに腹が  
立ったのは十年ぶりくらいで、そのルール女に対して、コロナ禍でずっと我  
慢してきたこと、例えばそのフェスでお酒が飲めなくなったこと、喫煙所も  
人数規制してて長蛇の列でその日一本も吸えてなかったこと、それだけじゃ  
なくてコロナになってから新しいルールと自主規制を押し付け続けてきた政  
府とか行政、個人に対する怒り、いやそれだけじゃなくて、幼い頃から出会っ  
てきた「ルールなんで」的なことを私に向かって口にしてきた全ての人間、  
組織、村社会的なものへの怒り、全てが元氣玉みたいになって向かってい  
くのを感じて、その後三十分くらいずっと頭の中で、コンビニのレジ袋の中  
に大きい石を入れてブンブン振り回してその女の頭を打ち付け続ける想像が  
止まらなかった」

(中略)

「でもママは実際にその人を殺したわけじゃないじゃん。そこで実際にやっ  
てしまうのと、思いとどまって自分を省みるのは全然違うよ」

「もちろんそれは全然違うよ。でも私はこんな女死んで当然だ、死んだ方が  
社会のためだって思いながら、頭の中で何度もその女を殺した。つまり私は  
自分の正義を盾にして、邪魔な奴らの死を強烈に願ったんだよ。邪魔な奴ら  
の死を望むって言うことがどういふことか分かる？ 全ての人は、生きてい  
れば必ず誰かの邪魔になるんだよ？」

「ちょっと待って。ママは何が言いたいの。私どうしてこんな苦しくて辛い  
話聞かされてるの？ なんか怖いよ。自分が普通に正しいと思つた生き方を  
してるだけで、人から殺したいと思われたり、自分が殺したいと思つたりす  
ることがあるって話だよ？」

「つまり、世界は理解し合えない人、話し合っても無駄な人で満ちているっ  
ていうこと。そういう人たちの隣人として生きていくことの難しさに、私は  
この年になっても直面して苦しんでる。物理的にも精神的にも独立していく  
年頃の玲奈が、友達らとそういう差異によって思い悩むのは当然だし、その  
差異を最大限の想像力を持ってやり過ぐすなり、超えるなりしていかなけれ  
ばならないってことを伝えたいんだよ」

「そんなこと言われたってどうしたらいいのか分からないよ。私はただ皆幸  
せだったらいいなって、皆に幸せでいて欲しいし、自分も幸せでいたいし、  
そのためにできることをしたいって思ってるだけだよ。私のしたことが、ど  
うしてそんなに駿くんを苦しめたのか、私には分からないんだよ」

「分からないなら想像しな。自分が想像できない人ほど、思いやりな。私は  
誰よりも、あの強烈な殺意を持ったルール女ほど思いやらなければならな  
いっていう結論に達して、自分の脆弱な倫理を一から構築し直していく道  
を選んだよ」

黙り込んで、カモミールティーを覗き込む。巨大な迷路に投げ込まれたみ  
たいだった。きつとどんなに考えても想像しても答えは出ないし、正解はな  
いのだ。そういうお題が私はもともと苦手なのだ。国語なんかでも、この時  
の主人公の気持ちはどうだったこうだったの問があるけど、そんなの分か  
るわけじゃないんだって私この人じゃないし。私だったらどう思うかだつた  
ら分かるよ、でも人のことなんて分かんないじゃないってこんな問題が存  
在するのの意味が分からない、ってずっとどこか投げ出していた。もちろん、

人のことは全然分かんないなんて言わない。でも自分の延長線上でしか考えられないよねって思う。この目の前にいるママのことだって、私はよく分からない。思考回路が全く分からない。どうしてそんなどうでもいい小競り合いで殺したいとまで思うのか、さっぱり分からない。席なんて譲り合えばいいじゃん。皆で譲り合いながらフェスを楽しめばいいじゃん。どうしてそんな簡単なことができないんだろう。どうして殺したいとか、虫けらとか、殺したいと思う自分に苦しむとか、そんな奇妙なことになるんだろう。ママの言葉によれば、譲れないものがあると、人は怒りを抱くってことらしい。好きなもの、大切なものがあればあるほど、怒りを抱きやすい。例えばパパが人参入れなくていいと言った時にママが怒るのは、人参を入れることを大切に思ってるから、つまり栄養のあるものを作ることに信念を持ってるから、ってことなんだろう。でも、コンビニとかで「袋いらない!」「ペイペイで!」とか怒鳴ってるおじさんとかは、一体何を大切に思ってあんなに大きな声を出してるんだろう。電車なんかでも、生きてるだけで苛々してる感じのおじさんをよく見る。ああいう人は、生きてるだけで大切なものを奪われてるような気持ちになってるってことなんだろうか。じゃあ駿くんは、何を大切に思ってるんだろう。そして私は、彼が大切にしているものの、何を傷つけてしまったんだろう。やっぱり、自尊心なんだろうか。LINEを見返して考えたいけど、さすがにママはもうLINEの使用許可を出してくれないだろう。

## II

ママはそう言っただけで立ち上がると、後ろを通り過ぎる瞬間私の肩に手を置き、「歯磨き忘れないようにね」と言い残して自分の部屋に入った。

(金原ひとみ『狩りをやめない賢者ども』 河出書房新社『文藝』より)

\*1 ラブドリ…音楽ユニット名。

\*2 セイラ、イーイー…いずれも同じ中学校に通う玲奈の友人。

\*3 ゲリラファーム…ゲーム名。

\*4 フェス…ロックフェスティバル。このイベントに出かけたのはママである。

\*5 脆弱…もろく弱いこと。

問一 〳〳線部(ア)「お冷」のよみがなを解答欄に合うように答えなさい。

問二 〳〳線部(イ)「施し」、(ウ)「村社会」の意味として最も適切な説明をそれぞれ①～④より一つずつ選び、番号で答えなさい。

(イ) 施し

- ① 支えて助け合うこと
- ② 感謝を期待すること
- ③ ひそかに物事を行うこと
- ④ 恵み与えること

(ウ) 村社会

- ① その集団全体の利益を守るため、古い慣習や秩序にこだわり、それにそぐわない者は排除することもためらわない集団。
- ② その集団全体の独自性を高めるため、いかに伝統を守るかを民主的に話し合い、成長を遂げていこうと努力する集団。

③ その集団全体に争いが起きないように、利益を気にせず、どのような相手であっても互いに助け合おうとする集団。

④ 集団全体を強固なものとするために、人々の心身の鍛錬を理論的な方法によって進めていこうとする集団。

問三 次のア～エに描かれた親切な行為のうち、——線部①「人の親切とか

正義感、必ずしもいいものとは限らない、あるいは裏の意味がある」と受け取られかねない具体的事例として、あてはまらないものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア A子さんはついつい歩きスマホをしてしまう。いつものように自分の感覚で左に曲がろうとしたところ、「危ないっ!」と知らない女性の声がした。恥ずかしいぐらいの大声だ。A子さんの目の前約数十センチのところを猛スピードの車が走っていったのだ。

イ 洗ったパレットの水気を切るために、流しの近くにあえてそのまま置いて図書室に出かけていった。教室に戻ると、学級委員のB美さんがいつも以上の笑顔で、「これ、A子ちゃんのだよね、私、きれいに拭いておいたのよ。はい。」と、そのパレットを持ってきてくれた。

ウ オンライン発表のためのチーム学習で、リーダーとなったA子さんの担当部分の出来ばえは本当に素晴らしい。しかし、あるとき、自分しか見ないので気にしていなかった原稿の誤字が細かく訂正されていた。副リーダーのC太君が直してくれていたのだ。

エ D香さんはとても友達思いで、私のことを常に心配していてくれる。部活動に入るときも「いろいろ部活を見学したけれど、A子には茶道部が合っていると思うし、人見知りなA子は私と一緒に茶道部に入るのが絶対いいから。」と私の入部届も出しておいてくれた。

問四 ——線部②「いつからか話を半分の半分くらいにしか聞かないように

気をつけるようになった。」とありますが、これはなぜですか。最も適切な説明を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア パパやママの言うことは世の中の大多数の人が考えることとは異

なっており、そのようなひねくれた考え方に自分自身が毒されてしまうことを避けたかったから。

イ 正義や親切を純粹に信じる正しい心を大切にしたいため、パパやママのような決して純粹とはいえない、風変わりな考え方に耳を傾けるのはやめようと思ったから。

ウ パパやママの考えは危険で、他者の親切を素直に受け取れない気の毒な人々を増やす可能性があるものだが、自分の親の考え方なのである程度は聞くしかないから。

エ 正義や親切をありのままに受容するシンプルさこそ自身が大切にしているものであり、パパやママの考え方であっても一定以上には聞き入れたくはなかったから。

問五 ——線部③「途端に自分が同年代の中でもかなり精神年齢が低いのか

もしれないという可能性にぶち当たって」とありますが、玲奈は「駿くん」のどのような点を受けて、自身をこのようにとらえたのでしょうか。あてはまらないものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 駿くんが家族の存在を達観し、冷静に見つめている点。

イ 駿くんが緊張感のある家族関係の中で生き抜いている点。

ウ 駿くんが自分の力や判断で生きていこうとしている点。

エ 駿くんが苦しい家計を少しでも支えようとしている点。

問六 ——線部④「うわだる」(うわー、だるい)という「駿くん」の言葉

には彼のどのような気持ちが込められているでしょうか。最も適切な説

明を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 玲奈が自分の境遇くわいごに思いを重ねてくれることは理解したが、自分のことで玲奈を悩ませるつもりは全くなく、思いがけない玲奈の態度にとまどう気持ち。

イ 玲奈が自分の境遇を気の毒に感じ、涙まで流していることに困り果てて、なんとかしなければと慌あわてているものの本心では彼女の行為を嬉うれしく思う気持ち。

ウ 玲奈が自分の境遇にショックを受け、心配して涙まで流してくれたことが自分への同情であると感じていらだちが募つり、彼女をどこまでも嫌けん悪おする気持ち。

エ 玲奈が自分の境遇に驚きを感じ、涙を流してくれる様子を見て、素直に感謝の気持ちを表すことはできないものの、彼女のことを愛いとしく感じる気持ち。

問七 —— 線部⑤「私たち子供こどもって超不安定なものの上に自分の生活が預けられてるんだなど改めて思う。」とありますが、これはどういうことですか。最も適切な説明を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子供は親を選べず、偶然ぐうぜん生まれた家庭環境かんげいの中で生きていくことしかできない無力な存在であると感じたこと。

イ 子供は自分ではどうすることもできない他者の生活せいかつに頼たよらなければ生きていけない未熟じじゆくな立場であると感じたこと。

ウ 子供の生活環境は経済力けいざいりきを含めた親の力に支えられて成り立つもので、幸福な生活は親の職業次第しごくしだいであると感じたこと。

エ 子供は純粹な存在で、子供自身の意思よりも親の意向によって人生

が決定づけられてしまう運命であると感じたこと。

問八 I にあてはまる最も適切な文を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 駿くんも本当はお母さんが大好きなはずだ。自分の親が嫌きらいな子供なんていない。牛カルビもとんかつもチャーハンも、嫌いな子供がいれば嫌きらいなもの。

イ 結局のところだから、私たちは無い物ねだりで、自分が持っていない両親やきょうだいや友達や物やルックスとか性格までをも欲ほしがってしまうのだ。

ウ いったいどうしてそんなにこじれたことになってしまったんだろ。青い鳥じゃないけれど人は目の前まへにある幸せには気がつきにくくってことなんだ。

エ なんだかんだいって駿くんが幸せそうでよかった。幸せの尺度しやくなんて人それぞれでうまく伝えられない。その無力さは何かを奪うばうことでは埋うめられないんだ。

問九 —— 線部⑥「分かってもらえない。この人に、私の気持ちは分かってもらえない。」とありますが、このときの玲奈の気持ちとしてあてはまらないものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の思いが相手には伝わらなかったことのやるせなさ。

イ 自分の思いが思いがけない方向にとらえられた寂しき。

ウ 自分の思いが好ましくなくように解釈しゃくされた怒り。

エ 自分の思いを相手に上手に伝えられない不安。

問十 — 線部⑦「浅はかなこと」とありますが、なぜ「浅はか」だということですか。その根本的な理由を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少しだけだが、駿くんの親のお店の売上の足しになればいいという気持ちを持ってしまったから。

イ 親友をもてなすのに適当だと考え、駿くんの親が経営するお店に外食をしに行ってしまったから。

ウ 駿くんに嫌がられる可能性があるとかわかっていたのに、駿くんの親のお店に行ってしまったから。

エ 自分の行為が駿くんを喜ばせるとは限らない可能性があることに全く気づかなかったから。

問十一 — 線部⑧「人を傷つけないなんて思ったことはないのに、それでも私は色々な人を傷つけてきたんだろう」とありますが、これは「玲奈」だけの問題ではなく、世の中の多くの人にあてはまることだと思われま。 「ママ」は人々の、このような性質によって、どのような問題が生じるおそれがあると考えているのでしょうか。最も適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新しいルールや自主規制を一方的に押し付けるようになる。

イ 全ての人は生きていれば必ず誰かの邪魔になる。

ウ 分からないことを想像しようとすらしなくなる。

エ 自分の正義を盾にして邪魔な人を積極的に排除するようになる。

問十二 — 線部⑨「ロボットみたいにな」とありますが、これは、その女性

のどのような様子を表しているのでしょうか。あてはまらない説明を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア まるでプログラムされたかのように決められたルールを守ることだけを大切にしている様子。

イ まるでレコーダーのように同じ言葉を繰り返すだけで、臨機応変なコミュニケーションがはかれない様子。

ウ まるで単純な機械のように、人間らしい現実的な感情を持たず、正しいことのみを守ろうとする様子。

エ まるで全く柔軟性のない物質のように、その場の特別な対処が効かず、他者に共感する力もない様子。

問十三 — 線部⑩「そういう差異」とありますが、線部の「いかにも大人しめな子たち」と「玲奈」の差異について、次のように説明しました。  
(1) (2) にあてはまる語を指示した字数にしたがって自分の言葉で答えなさい。

積極的にコミュニケーションをとることを、玲奈は (1) 五字程度 ) と考えているが、大人しめな子たちは (2) 五字程度 ) と考えていること。

問十四 — 線部⑪「自分の脆弱な倫理」とありますが、なぜ「脆弱」だといえるのでしょうか。その理由として最も適切な説明を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の価値観だけをより所にして物事を見ていたから。

イ 自分が本当は何を求めているのかわからなかったから。  
ウ 自分の信念が弱く、他者に影響されやすい部分があったから。  
エ 自分の学びが未熟で、確かな知識が身につけていないから。

問十五 この文章が最も伝えたかった事柄ともいえる、IIにあてはまる最も適切な文を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア とにかく他者を信じて生きよう  
イ さあ、前を向いて生きるのよ  
ウ 自分の信念は貫いたほうがいいよ  
エ まあ、思慮深く生きなさい

問十六 この文章の表現や内容に関する説明として、明らかにあてはまらないものを次のア～オより二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「玲奈」と「ママ」のやりとりを中心として物語が進み、一途で純粹だが幼いところのある「玲奈」の考えを「ママ」が拒否し、たしなめるという展開を通じて「玲奈」の心の成長が力強く描かれている。  
イ LINEやインスタグラムなどのSNSツール、若者に流行する文化、コロナ禍における世の中の閉塞的な状況など、現在の社会を取り巻く身近な事柄が個人の視点を通して描かれている。  
ウ 句読点の位置が工夫されたり、話し言葉特有のくだけた表現が用いられることで、若い登場人物のやりとりにリアリティーが生まれ、この問題が日常にひそむものであることをうかがわせている。

エ 「はま屋」での外食で、女友達が「玲奈」の、「駿」への好意を疑って冷やかしの表情を浮かべたことから、「駿」と「玲奈」、及び女友達

らは、地元の同じ小学校の同級生であったことがわかる。  
オ 現実の世の中でも起きているであろう出来事を想像させるシヨッキンクな内容も、「玲奈」の中学生らしい真っ直ぐな言動によってそれほど深刻さを感じさせないものとなっている。

問十七 この文章の内容、及びその内容から考えられる社会のあり方などについて、様々な意見を挙げました。次のア～オより、本文の内容からは考えられない意見を二つ選び、記号で答えなさい。

ア この話の注目するべきところは、「ママ」の考えを描いた点だ。これは学校の道徳の教科書には決して書かれないような内容だが、ある意味、それこそが人間の本音だと考える人もいるだろう。そして、そんな「ママ」が自分の意識を変えようと気づくシーンが一番考えさせられるところだと思った。

イ 作者は「玲奈」のように相手のことを真っ先に考えてあげる優しさを最も求めているのだと思う。そして「斜に構えた」「世の全てを冷笑する」とか、決して好ましく描かれない「ママ」の意見をあえて取りあげることで、「玲奈」が信じる正義や心の優しさを際立たせて訴えたいのだと思った。

ウ この話は結局、世の中の分断や不寛容といった根深い現代の問題を描きたかったのだと思う。互いが相手を思いやって行動すれば良いという、いとも簡単な解決策で、社会の分断は必ず乗り越えられるはずだし、どんな相手ともわかりあえる平和な社会になるならば、明日から早速試してみようと思った。

エ この話で僕が驚いたのは、譲れない、大切なものを守るために人は

怒りを感じるというところ。でもその大切なものは個人によって違うし、他人が完全にそのことを理解するのは難しい場合がある。だからこそ社会では多様性を重んじ、それぞれの生き方を尊重するように言われるのだと思った。

オ 私は、困っている人や弱い人のために手を差し伸べるのは理屈抜きで良いことなのだと思う。でも手を差し伸べる側の本音は利他にかこつけて自身が優越感を得たいためである可能性もある。そう考えると、「他人のため」という行為は必ずしも称賛されるものとは限らないと思った。

